

香取神宮と周辺神社の役割

1. 香取神宮・大戸神社
2. 息栖神社
3. 筑波山神社・瞻男神社
4. 川上山若宮八幡神社



しくみ

- 御嶽山二の池 274.80km - 香取神宮 - 大沼浮島 274.80km
- 御嶽山二の池 268.86km - 大戸神社 - 大朝日岳 268.86km
- 穂高岳山頂 271.63km - 息栖神社 - 大朝日岳 271.63km
- 御嶽神社里宮（王滝）234.50km - 筑波山神社女体山御本殿 - 234.50km 大沼浮島
- 黒沢御嶽神社若宮社 227.06km - 筑波山神社男体山御本殿 - 227.06km 大朝日岳
- 御嶽神社里宮（王滝）268.40km - 瞻男神社 - 268.40km 大朝日岳
- 川上山若宮八幡神社 - 御嶽神社里宮（王滝） - 大沼浮島 - 早池峰神社（大迫）

1. 香取神宮・大戸神社



■ 御嶽山二の池 274.80km - 香取神宮 - 大沼浮島 274.80km

勝頂角

香取神宮

日本神話で大国主の国譲りの際に活躍する経津主神（フツヌシ）を祭神とする全国でも有数の古社。古くは朝廷から蝦夷平定神として、また藤原氏から氏神の一社として崇敬された。鹿島神宮、息栖神社とともに東国三社の一社。千葉県香取市香取1697-1

（参考）出雲の国譲り神話

香取の御祭神経津主大神（ふつぬしのおおかみ）は、この神話に出てくる神様なのです。神話の内容は、はるか昔、天照大神（伊勢神宮・内宮の御祭神）が日本の国を治めようとしていましたが、荒ぶる神々が争い、乱れていました。

大御神は八百万神に相談すると、天穗日命（あめのほひのみこと）がすぐれた神であるということで遣わされましたが、出雲国の大国主神に従ってしまったので、次に天稚彦（あめのわかひこ）が遣わされました。天稚彦もまた忠誠の心なく、顯國玉神（うつしくにたまのかみ）の娘の下照姫（したてるひめ）を妻として、自ら国を乗っ取ろうとしましたが、亡くなってしまいました。

このようなことが二度つづいたので、大御神が八百万神に慎重に相談させると、神々が口を揃えて、経津主神こそふさわしいと申し上げました。そこへ武甕槌大神（たけみかづちのかみ・鹿島神宮の御祭神）が申し出られたので、共に出雲に派遣されることになりました。

経津主、武甕槌の二神は出雲国の稲佐の小汀（いなさのおはま）に着いて十握剣（とつかのつぎ）を抜いて逆さに突き立て、武威を示されると 大国主神は大御神の御命令に全く異議はありませんということで、平国の広矛（くにむけのひろほこ）を受け取り、二神は日本の国を平定して、大御神の元へ復命されたのです。



左負角

御嶽山二の池

日本で最も高い場所にある高山火口湖。標高は2,905mに蒼い水を湛え、平均深度は1.3m、最大深度3.5mにおよぶ。面積19,300平方mと広く、湖畔の万年雪を背景に、御嶽山頂部にある雲上の湖として神秘の姿をみせている。畔には二の池本館が、三の池方面に向かう途中に二の池新館がある。

(御嶽山頂の五つの池)

大昔、御嶽山の一ノ池に、白籠、黒龍、赤龍、青籠、黄龍の五つの龍神が棲んでいた。ところがときどき人が登ってきては池を覗いたり、石を投げたりいたずらをするので、龍はどうも怒りだし、池を押し破って、二、三、四、五の池を次々と造って各々別々に棲むようになったという。龍神伝説が伝わる神秘の池。

御嶽山神社

祭神/国常立尊・大己貴命・少彦名命。

不神代の昔、大国主神の第二の御子、健甕御名方命たけみなかたのみこと（諏訪大明神）が出雲の国より信州諏訪湖の辺へ御下りになり、信濃の国を開発せられたる時、木曾谷を御巡行の途次「御嶽」の霊峰を讃美し給いて、その山上に造化の大元霊たる天地開闢の国常立尊と、御父神たる大己貴命と、御父神と、同功一体の少彦名命の三柱の大神を御勧請になり、国家の安穩と五穀の豊穰を御祈りなされたと伝えられています。

其の後、文武天皇、大宝年中には役小角（神変大菩薩）、桓武天皇延暦年中には空海（弘法大師）、醍醐天皇延喜年中には北白川宿衛小将重頼卿（白川大神）、下っては、木曾義昌、武田勝頼等、名僧、国司、名将、名家が登拝祈請された。

木曾御嶽山頂上奥社は大宝2年（702年）信濃国司高根道基が創建し、ついで延長3年（925年）白川少将重頼が木曾御嶽山へ登山し神殿を再建した。また、一合目里宮社は文明16年（1484年）再建、文亀3年（1503年）再興と記録にある。里宮（さとみや）、十二大権現、八海山神社、三笠山神社、田ノ原大黒天、頂上奥社の各社殿からなる。古来登山するには麓で百日精進潔斎の修行をしてから登拝したものでありましたが、後世の天明2年（1.782年）に覚明行者が黒沢口登山道を、寛政4年（1.792年）に普寛行者が、王滝口登山道をそれぞれ開き、講社を作り軽精進潔斎で盛んに登山を奨励した。



右負角

大沼浮島（出島）

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数32あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳9年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼



備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志が

あるかのように動き回り驚く。役の小角は梵字が書かれた板碑が流れてきたのを見つけたのだから、すでに大沼は異教徒の浮島信仰の地だったはず。稲荷神社の神池とされるが、「大富沼」が大沼なら元々は大富系「富一族」の祀る沼だったのである。大朝日岳にも大富観音が祀られていた。元々弁財天や龍神の神池に稲荷神が祀られたのだと考えられる。あるいは、730年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるが、その時に稲荷社にすり替えられたのかもしれない。いずれにせよ、古いしくみはほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「出島」(写真)が起点となっている。弁財天を祭神とする大沼浮島社(仮称)はここにあったはず。全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫が祀られているのも本来は分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見える。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になるにちがいない。



備考

大沼浮島と御嶽山の龍神を封じる香取神宮。頂上ではなく池だが、次の大戸神社も大朝日岳と二の池が同距離になるので確信を得た。磐座信仰時代は、湖沼は龍神の聖地。しかも二の池は大地とつながる火口湖。御嶽山にとっての大聖地といえる。香取神宮の昔の本殿は北西向きという説がある。大沼浮島と御嶽山に向いていたのではないか。

■御嶽山二の池 268.86km - 大戸神社 - 268.86km 大朝日岳

勝頂角

大戸神社

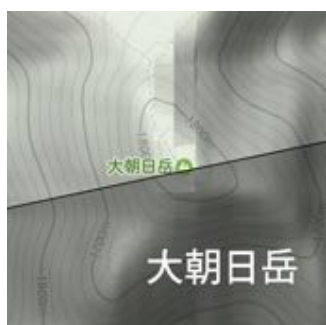
祭神/天手力男命(あまのたぢからおのみこと)十二代 景行天皇40年(111年) 日本武尊東征の時、蝦夷征討祈願のため勸請。現在の香取市大戸の地に遷座し、幾度かの遷宮の後、三十六代 孝徳天皇白雉元年(650年)現在地に宮柱造営されました。香取市大戸555



右負角

大朝日岳(朝日連峰・朝日岳)

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』(1505年)によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権現・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天(初頭神は大山祇神)、女躰権現は大日如来(木花咲耶姫命)、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。朝日嶽信仰は執権北条時頼(1246~56)によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。



備考

大富権現の「富」は出雲族の富族を表すのでは。朝廷が位を授けたのは平安時代の貞観地震の翌年のこと。過去に朝日岳に対してやましい事実があったことを裏付けられる。

左負角

御嶽山二の池 ※上記参照

備考 御嶽山と大朝日岳の竜を封じる大戸神社。本殿は大朝日岳と御嶽山の間の北西に向いている。

2. 息栖神社



■穂高岳山頂 271.63km - 息栖神社 - 大朝日岳 271.63km

勝頂角

息栖神社

鹿島・香取神宮とともに東国三社の一社。祭神は久那戸神。社伝では、鹿島神・香取神による葦原中国平定において、東国への先導にあたった神という。武神の乗り物であった「天鳥舟」というひかえめな存在の神が祭られている。「土地の守り神」として親しみがもてる雰囲気を感じます。また井戸がご神体とされているという点からも、より身近に感じることができる。茨城県神栖市息栖2882



左負角

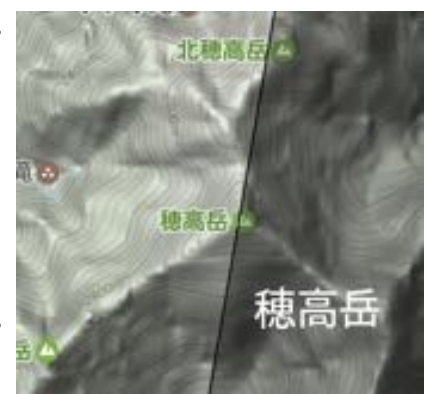
穂高岳

穂高神社祭神の穂高見神は、伊邪那岐の孫。伊邪那岐は死んだ伊邪那美の黄泉国から逃げ帰り、穢れを洗い落とすため阿波岐原で禊を行う。その水から生まれたのが海神＝綿津見神とされる。この息子が宇都志日金析＝穂高見神で、これが阿曇氏の祖先とされている。安曇族は、もと北九州に栄え主として海運を司り、早くから大陸方面とも交渉をもち、文化の高い氏族であった。醍醐天皇の延長五年（西暦九二七年）に選定された延喜式の神名帳には名神大社に列せられている。長野県松本市

右負角

大朝日岳 ※上記参照

備考 穂高岳と大朝日岳を封じる息栖神社。久那戸神は出雲の神様のはず。猿田彦神と同じく先導役をさせられ勝頂角役もさせられている。



3. 筑波山神社女体山・男体山御本殿、瞻男神社



■ 御嶽神社里宮（王滝）234.50km - 筑波山神社女体山御本殿 - 234.50km 大沼浮島

勝頂角

筑波山神社女体山御本殿

筑波山神社は坂東無双の名嶽とうたわれた筑波山を境内とし、古代山岳信仰に始まる国内屈指の古社。西峯男体山頂（871m）の磐座に筑波男神（伊弉諾尊）を、東峯女体山頂（877m）の磐座に筑波女神（伊弉册尊）を祀る。第十代崇神天皇の御代（約二千年前）に、筑波山を中心として、筑波、新治、茨城の三国が建置されて、物部氏の一族筑波命が筑波国造に命じられ、以来筑波一族が祭政一致で筑波山神社に奉仕。第十二代景行天皇の皇太子日本武尊が東征の帰途登山されたことが古記に書かれ、その御歌によって連歌岳の名が残る。奈良時代の『万葉集』には筑波の歌二十五首が載せられ、常陸国を代表する山として親しまれていた。延喜の式制（927年）で男神は名神大社、女神は小社に列しました。

つくば市筑波



左負角 御嶽神社里宮（王滝）

祭神/国常立尊・大己貴命・少彦名命。古来、「本社」「若宮」「岩戸権現」とも呼ばれる。御嶽登拝の前の精進潔斎のための参籠の行場。山上の「奥宮」に対する「里宮」古くは御嶽三十八座の一つで、木曾氏の特別の崇敬により、三十八座の首座・木曾の惣社としてあがめられた。長野県王滝村東3315

右負角 大沼浮島 ※上記参照

■ 黒沢御嶽神社若宮社 227.06km - 筑波山神社男体山御本殿 - 227.06km 大朝日岳

勝頂角 筑波山神社男体山御本殿 ※上記女体山御本殿を参照

左負角

黒沢御嶽神社若宮社

創祀年代は不詳。

至徳二年（1358）、木曾家親（家信）によって再建された。

また、一説には、奥社、里社本社、里社若宮の三所とも延長年間（923-931）の造営とも。200m東へ進むと若宮居住遺跡（縄文）がある。

右負角 大朝日岳 ※上記参照



■ 御嶽神社里宮（王滝）268.40km - 瞻男神社 - 268.40km 大朝日岳

勝頂角

瞻男神社

まもりを神社。香取神宮境外社(西の宮)。旧参道脇。

大名持(おほなむちの)神 香取市津宮

左負角 御嶽神社里宮（王滝） ※上記参照

右負角 大朝日岳 ※上記参照



備考

御嶽山と大沼浮島を封じる筑波山神社女体山本殿。御嶽山と大朝日岳を封じる筑波山神社男体山本殿と瞻男神社。とはいえ、筑波山の神はイザナギ、イザナミ。本来の筑波山の大地神を封じているのではないだろうか。御嶽山の大地神を直接封じる役割として国常立尊を置いた。大朝日岳は大地神弁財天→建御名方神→大日靈貴神（天照大御神）→千年封じ。日本中の自然聖地がこうやって別の神にすりかえられたのだと思う。

4. 川上山若宮八幡神社



■川上山若宮八幡神社 - 御嶽神社里宮（王滝）- 大沼浮島 - 早池峰神社（大迫）

川上山若宮八幡神社

主神 仁徳天皇 磐之媛皇后 社伝によれば、この地方は昔、わが国最初の東海道に沿い、大和宮廷から（伊勢）神宮への勅使往来の通路。更に家城から奥の地は岩野郷と称して、磐之媛皇后の御領地で、仁徳天皇(399没)はこの郷の開拓に努められた。そこで履中天皇の御代（西暦五世紀初）郷民が、仁徳天皇及び磐之媛皇后の御遺徳をお慕い申し上げる余り、伊勢平野を見下ろす修験業山の麓この川上の清地を選んで御社を設け、お二方の御魂を祀ったのが日本最古の若宮八幡宮であると伝えられる。当社殿創始は前述の様ですが、それ以前太古より修験業山の自然の磐座たる高宮に鎮座する国津神、天津神、八百萬神を尊崇してきました。これが当社創建の淵源であります。 三重県津市美杉町川上3498

御嶽神社里宮（王滝） ※上記参照

早池峰神社（大迫）

大同2年（807年）、田中兵部・始閣藤蔵の2人が山頂に姫大神を祀ったことに始まる。正安2年（1300年）、越後の住人、阿闍梨円性が天下の霊地であると、この地に留まり、一字を建立、早池峯大権現と崇め奉った。岳妙泉寺の始まり。池上院妙泉寺とも。その際、新山宮、仁王堂、山門、寺などが創建された。しかし、文亀元年（1501年）と、永禄3年（1560年）の二度の火災により、多くの堂宇が焼失し、一時衰退。その後、この地が南部氏領となった天正19年（1591年）からは、盛岡城下の東の鎮山として早池峰山に対する崇敬が厚くなり、慶長13年（1609年）、南部利直が当地を巡視した際に当社を参詣、社領150石を寄進し、領内海陸総鎮守として崇敬された。花巻市大迫町

備考 早池峰山と大沼浮島と御嶽山の気を引き護りに付ける川上山八幡宮。